

[成果情報名] 2016年12月の山形県沿岸におけるスルメイカ漁場環境の特徴

[要 約] 秋田県男鹿半島沖北部においてスルメイカの適水温の下限とされる12°Cの等温線が離岸し、南下経路に水温14~16°Cの領域が広く形成され、佐渡島北側に時計回りの渦が長期間にわたり形成されていた。このため、12月に山形県沿岸にスルメイカの好漁場が形成されたと考えられる。

[部 署] 山形県水産試験場・海洋資源部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 政

[キーワード] スルメイカ、水温、海流、漁場形成

[背景・ねらい]

山形県における2016年12月のいか一本釣漁業におけるスルメイカの漁獲量は266トンであり、前年比963%、過去5年平年比4,527%と好漁であった(図1)。2016年12月の山形県沿岸におけるスルメイカ漁場形成要因を検討するため、12月の海況の特徴を調査した。

[成果の内容・特徴]

1. 山形県沿岸で12月に漁獲されるスルメイカは冬季発生群とされている。この群は太平洋を北上し成熟が進むにつれて南下回遊に切り替わり、津軽海峡、宗谷海峡を通過して太平洋側から日本海へ移動し、産卵海域と推定される東シナ海へ回遊する(水産庁増殖推進部・(国研)水産総合研究センター 2016)。このため、この成果では本県沖に南下来遊する前の北部日本海から本県沖にかけての海況を中心に解析した。
2. スルメイカ漁況・市況情報(一般社団法人漁業情報サービスセンター(JAFIC))より、2016年12月の山形県沿岸におけるスルメイカ漁場は本県南部沖に形成されたと推測した(図2)。
3. スルメイカ漁場環境の解析には、拡張版日本海海況予測システム(JADE2)の再現図(50m層)及び気象庁ホームページの旬平均海流(50m)を用いた。
4. 2016年は秋田県男鹿半島沖北部においてスルメイカの適水温の下限とされる12°Cの等温線が離岸していた。また、南下経路に水温14~16°Cの領域が広く形成されていたので、スルメイカにとって日本海を南下しやすい環境であった。さらに、9月上旬より本県南部沖に時計回りの渦が長期間にわたり形成されており、スルメイカが集まりやすい環境が継続していた。このため、2016年12月に山形県沿岸にスルメイカの好漁場が形成されたと考えられる(図3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 他道県(特に北海道と太平洋北部の県)の漁況やより広範囲の海況とを合わせて解析する必要がある。他の年の漁海況を解析し、山形県沿岸におけるスルメイカ冬季発生群の漁場形成要因を解明する。

[具体的なデータ]

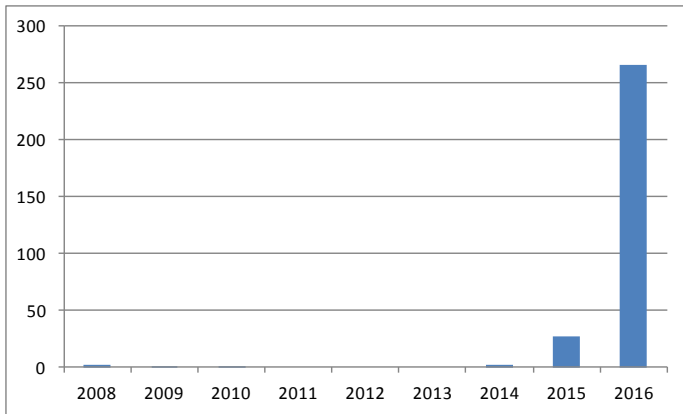


図1 山形県における12月のいか一本釣漁業におけるスルメイカ漁獲量の推移

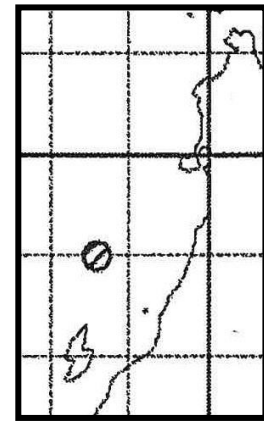


図2 スルメイカ漁場(2016年12月21日)
(スルメイカ漁場・市況情報(JAFIC)を改変)

2016/12/01

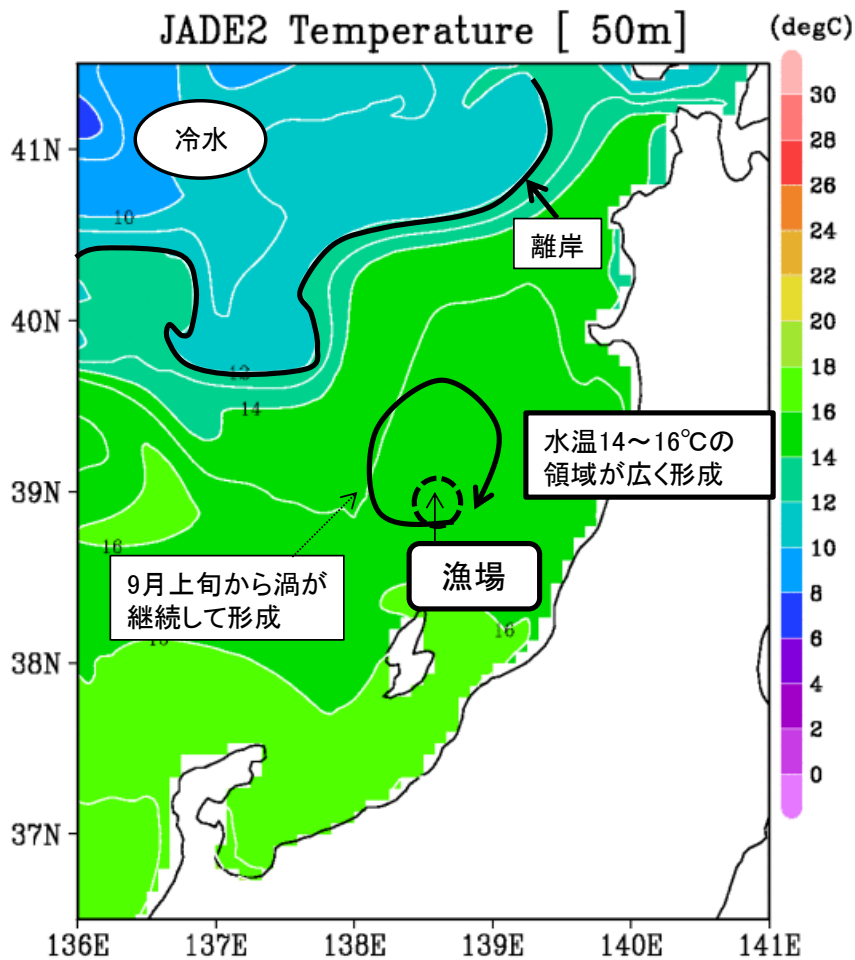


図3 2016年12月のスルメイカ漁場の模式図

[その他]

研究課題名：資源調査・評価事業
 予算区分：受託
 研究期間：平成28年度
 研究担当者：河内正行
 発表論文等：なし